

「東京さくらトラム」

野瀬 隆平

集合場所は大塚駅。仲間と東京に残る唯一の都電、荒川線、愛称「東京さくらトラム」に乗る散策の会である。

東京がまだ「市」であった明治後半に初めて「市電」が走った。最盛期には総路線距離200キロにも及んだが、その後自動車の普及もあり道路の混雑を回避するために昭和42年（1967年）に荒川線を除き、他の路線は全て無くなった。

この荒川線は三ノ輪橋と早稲田の間の12.2キロ（停留所の数30）を走るもので、今回はその途中駅である大塚駅から乗車という企画である。乗車賃は170円であるが、何回か乗り降りするので400円の一日乗車券を買うことにした。

大塚駅から二つ目の庚申塚駅で下車。

江戸時代の中山道、日本橋から板橋に向かうルート上にあり、最初の「立場」があったところ。立場と云うのは休憩所のようなものだ。ここから右に曲がって行けば桜の名所、飛鳥山に至る。その目印として「庚申塚」が建てられた。碑文の説明によると、干支でいう庚（かのえ）申（さる）の年である文亀二年（1502年）に建立されたという。猿が祀られている。

かつての中山道は、今は巢鴨地藏通りとしてにぎわっており、「おばあちゃん原宿」と呼ばれるだけに、商店街には「おばあちゃん」が大勢歩いている。

お昼近くになり、そば屋に入り新そば打ちたての更科蕎麦をいただく。細くて冷たいそばが、少々喉が渴いていたので、ことさら美味しく感じる。

庚申塚の駅に戻り、次は渋沢資料館などがある飛鳥山公園を目指す。飛鳥山の停留所で降りるのが一番近いのだが、あえて一駅先の王子駅前まで行く。そこから、飛鳥山に登る無料のモノレールに体験乗車するためである。

資料館では、日本の近代経済の基礎を築いた渋沢栄一の業績の数々に圧倒される。

最後に公園にある蒸気機関車、D51の前で記念写真を撮り、本日の散策は終了。後はトラムで池袋に行き、打ち上げの飲み会を行うのだが、自分はここで離脱することにした。